【別添２】

２８	兵庫県立須磨東高等学校	H28～R1

令和元年度研究開発自己評価書

Ⅰ　研究開発の内容

１　教育課程

（１）編成した教育課程の特徴

公民科学校設定科目「メディア研究」（１年生必履修）を新設し、「総合的な学習の時間」（現「総合的な探究の時間」）に「リーガルマインド基礎」（1 年生必履修）を置く。併せて「リーガルマインドⅠ」（２年生選択）、「リーガルマインドⅡ」（３年生選択）を表１のように設定し、四つの科目の学習をとおして「市民性としてのリーガルマインド」を育成する教育課程を編成した。

表１　研究開発科目と学年

学年	科目名	時間数
１年生（必履修）	メディア研究	１時間
	リーガルマインド基礎	１時間
２年生（選択履修）	リーガルマインドⅠ	１時間
３年生（選択履修）	リーガルマインドⅡ	１時間

次に、「市民性としてのリーガルマインド」のために育成すべき資質・能力を具体化・構造化したものを図１に示す。

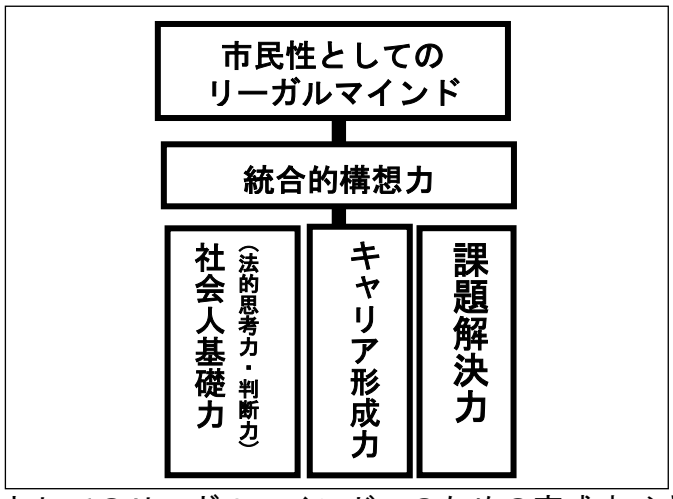


図１　「市民性としてのリーガルマインド」のための育成すべき資質・能力とその構造

図１のように、「市民性としてのリーガルマインド」のために育成すべき資質・能力として「社会人基礎力」、「キャリア形成力」、「課題解決力」の三つを設定し、それらの資質・能力を１・２年生の学習で身につけた生徒が、３年生では、三つの資質・能力を「自ら」活用（「統合的構想力」）して、課題を解決するなどの活動ができるようになるカリキュラムを構想した。それを示したのが、次頁の図２である。

学年		1年生（全員）									1年生（全員）					2年生類型生徒						3年生類型生徒	
科目名		リーガルマインド基礎									メディア研究					リーガルマインドⅠ						リーガルマインドⅡ	
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)
育成すべき資質・能力		コンセンサスゲーム	公平について考える	質問する力を磨く	職業人インタビュー	講演会	正義について考える	職業人に学ぶ	法教育講演会	ギターが壊れた！	メディアの送り手と受け手	メディアの発達と社会	統計の読み方	税から地方自治を考える	メディアと政治	法と私たち①	法と私たち①～⑨	裁判傍聴	模擬裁判①～⑩	地域社会に学ぶ	課題探究に向けて	課題探究	未来探究
社会人基礎力	a自分の役割を果たしつつ、他者と協力する態度	■	■	■			■			■				■			■		■	■			
	b公正・公平に価値判断をする力、物事を多面的に捉える力	■	■	■		■	■			■		■	■	■	■	■	■		■				
	c様々な情報を適切に取捨・選択する力	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	■	■	■			
	d法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす態度				■		■			■				■	■	■	■	■	■	■			
キャリア形成力	a主体的に社会に参画する態度				■	■		■						■			■			■			
	b「働くこと」の意義を理解する力				■			■															
課題解決力	a社会の様々な課題を抽出し設定する力					■	■			■				■			■		■	■			
	b課題について整理・分析し、調査する力									■				■	■		■		■	■			
	c課題解決のために適切な計画を立て、解決策を考察し説明する力									■				■			■		■	■			
	d協働的に追究し解決する態度									■				■			■		■	■			
	e解決したことをまとめて表現する力									■				■			■			■			
構想力	a意思決定のプロセス(現状分析・課題の抽出、解決策の提案)を自ら踏むことができる力																				■	■	■
	b継続的な対話や協働をとおして自ら納得解を得る力																					■	■

図２　「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」と育成すべき資質・能力

このように「市民性としてのリーガルマインド」のために育成すべき資質・能力を、３年間かけて育成する教育課程である。

（２）教育課程の内容は適切であったか

次の表２は、39 回生(2018 年度卒業)から 41 回生(2019 年度２年生)を対象に、それぞれの学年末に「社会人基礎力」「キャリア形成力」「課題解決力」の育成について調査を行い、「あてはまる」「割とあてはまる」と回答した生徒の割合を示したものである。

表２　「市民性としてのリーガルマインド」に関する資質・能力アンケート

回生	学年	社会人基礎力				キャリア形成力		課題解決力		
		自分の役割を果たしつつ他者と協力する態度	公正、公平に価値判断する力、物事を多面的に捉える力	様々な情報を取捨・選択する力	**法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす態度**	主体的に社会に参画する態度	「働くこと」の意義を理解する力	社会の様々な課題を抽出し設定する力	課題解決のために適切な計画を立て、解決策を考察し説明する力	解決したことをまとめて表現する力
41回生	1年生(280名)	86	84	68	**39**	**31**	**23**	67	68	48
	1年生類型(28名)	89	71	71	**54**	**47**	**21**	60	67	57
40回生	1年生類型(29名)	93	83	80	**38**	**42**	**31**	79	76	69
	2年生類型(29名)	93	82	89	**45**	**38**	**31**	76	83	58
39回生	2年生類型(29名)	93	86	94	**57**	**64**	**57**	87	90	87
	3年生類型(29名)	96	96	89	**58**	**55**	**31**	86	89	**65**

１年生の時よりも３年生では「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力の多くを身につけていると実感している生徒が増加していることがわかる。

一方で、３年間通じて「社会人基礎力」のうちの「法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす態度」と、「キャリア形成力」（社会参画や、「働くこと」の意味を理解する力）の数値が他に比べて低いことがわかる。

また、次の図３に示したように、39 回生３年生類型(29 名)の「課題解決力」のうちの「解決したことをまとめて表現する力」については、「あてはまる」と回答した生

徒が、２年生末と比べると 20%から 34%に増加しているのに対して、「あまりあてはまらない」と回答した生徒は、２年生末と比べると 13%から 31%に増加しており、二極化していることがわかる。

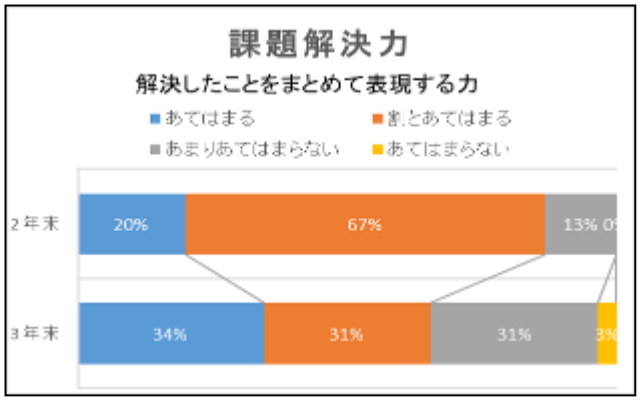


図３　39 回生(29 名)リーガルマインド類型生徒アンケート 2 年末・3 年末比較

３年生における学習が「卒業論文」の執筆や「未来探究」など、「自ら」課題意識を持って探究し、それらを表現する活動であり、これは本研究で設定している「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力のうちの「統合的構想力」の育成を目指すカリキュラムである。それに対して、「できた」と実感する生徒が増えた一方で、「難しかった」と感じる生徒も一定数いたということである。

３年生の「統合的構想力」については今後一層の研究が必要であるものの、概ね「市民性としてのリーガルマインド」を育成することができる教育課程であると考える。

（３）授業時間等についての工夫

次の図は、研究開発指定を受けた当初(平成 28 年度)と同様の、令和元年度の本校の教育課程表である。

１年生においては、公民科「現代社会」の 1 単位を減じて「メディア研究」（必履修）を置き、また、「総合的な学習の時間」（現「総合的な探究の時間」）を「リーガルマインド基礎」（必履修）として設置した。

〈１年生〉

※総合：「リーガルマインド基礎」として実施

２年生の「リーガルマインドⅠ」(選択履修)については、文型理型を問わず選択できる科目として設定しているため、他の選択科目（文型 20、21 枠）と同様の枠にはめることが難しい。そこで、７限目にぶら下げる形で配置した。

〈２年生〉

文型	現代文B	古典B	世界史A	日本史B		数学Ⅱ			生物基礎	数学B	選択M	体育		保健	コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅱ	LHR	リーガルマインドⅠ
			日本史A	世界史B					地学基礎	選択L									
理型	現代文B	古典B	世界史A	地理B		数学Ⅱ		数学B	地学基礎	化学	物理	体育		保健	コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅱ	LHR	
									生物基礎		生物								

※リーガルマインドⅠは選択科目

３年生の「リーガルマインドⅡ」(選択履修)は、２年生の「リーガルマインドⅠ」からの継続履修とし、文型生徒・理型生徒が混在しているため、文型選択枠（19～28枠）、理型選択枠（12、13 枠）にはめることが難しい。そこで、７限目にぶら下げる形で配置した。

〈３年生〉

文型	現代文B	古典B	日本史B		体育	コミュニケーション英語Ⅲ			英語表現Ⅱ	選択１０単位（２単位×５科目）								総合	総合	LHR	リーガルマインドⅡ
			世界史B																		
理型	現代文B	古典B	地理B	総合数学γ2		選択	化学		物理	体育		コミュニケーション英語Ⅲ		英語表現Ⅱ	総合	総合	LHR				
				数学Ⅲ		総合数学β			生物												

※リーガルマインドⅡは選択科目

２　指導方法・教材等

（１）実施した指導方法等の特徴

①１年生「メディア研究」

「メディア研究」は、公民科「現代社会」を１単位減じて設定している科目であり、クラス単位で、公民科教員が担当し実施する授業である。

「現代社会」(1 単位)で「（２）現代社会と人間としての在り方生き方」のうちの「ア　青年期と自己の形成」、「エ　現代の経済社会と経済活動の在り方」、「（３）ともに生きる社会を目指して」を学習し、「メディア研究」（1 単位）で「（１）私たちの生きる社会」「（２）現代社会と人間としての在り方生き方」のうちの「イ　現代の民主政治と政治参加の意義」、「ウ　個人の尊重と法の支配」、「オ　国際社会の動向と日本の果たすべき役割」に関連する主題を扱うこととした。

身近な社会の問題を資料として準備し、グループでの対話を行う中で、自らの考えを構築できる授業展開とした。

②１年生「リーガルマインド基礎」

「リーガルマインド基礎」は、「総合的な学習の時間」(現「総合的な探究の時間」)に設定している科目であり、クラス単位で、各担任が担当し実施する授業である。

中学校社会科公民的分野での学習成果の上に立って、公平や公正、正義といった基

礎的・基本的な概念を理解し、これを活用して社会の在り方を考察し、協働で解決を図る学習を繰り返す授業構成である。また、「働く」ことに関連付けて自己の在り方や生き方について考察するなど、「生きる力」を高める場面を設けた。

クラス担任が授業担当者であるため、毎時間事前に指導案検討を行い、クラス間の指導にばらつきが出ないよう配慮した。

③２年生「リーガルマインドⅠ」、３年生「リーガルマインドⅡ」

「リーガルマインドⅠ」、「リーガルマインドⅡ」のいずれも選択履修であり、継続履修を求めているため、受講者は毎年 30 名前後である。授業は、主に地理歴史・公民科と国語科、情報科教員３名が担当するＴＴで行われる。

１年生で学習した「リーガルマインド基礎」の学習成果を踏まえながら、２年生では「模擬裁判」を実施し、法的な課題解決について学習するとともに、自ら課題を見つけ解決策を見出す場面を設定していく。そして、３年生では各自の課題意識に基づく「卒業論文制作」へとつなげていく単元構成とした。

（２）指導方法等は適切であったか

前項の表２で示したように、生徒は学年が上がっていくにしたがって「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力を概ね身につけたと実感しており、指導方法に大きな誤りはなかったと考える。

また、後述する教員アンケート（エピソード集め）によると、文化祭や体育大会での場面や部活動、また国語や世界史など他教科において、多面的に思考し話し合いをリードする生徒や、自分たちの成長に今何が必要か、どんな課題があるのかを仲間(チーム)で話し合う生徒など、身につけた資質・能力を様々な場面で発揮している姿をみとることができている。

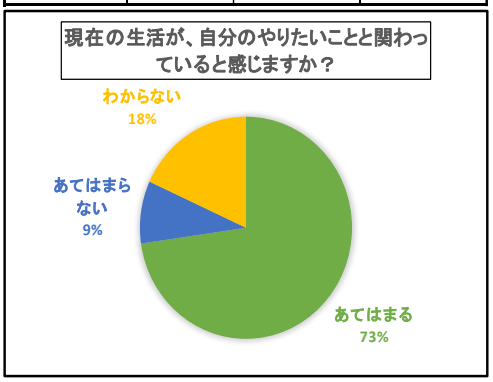
一方で、前項で指摘したとおり、「法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす態度」と「キャリア形成力」、「統合的構想力」については、生徒が身につけたことを実感するのが難しい資質・能力であることがわかったため、これらの指導方法については、今後も引き続き研究する必要がある。

Ⅱ　実施の効果

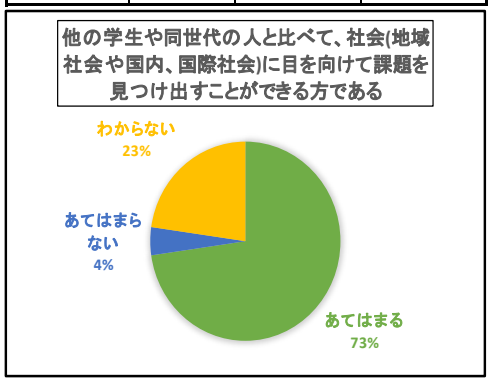
１　生徒への効果

2019 年 7 月から 8 月の夏休み期間を利用して、リーガルマインド類型卒業生 1 期生 25 名、2 期生 30 名、合計 55 名に対してアンケートを実施した結果、22 名（40%）からの回答を得た。その結果を次に示す。

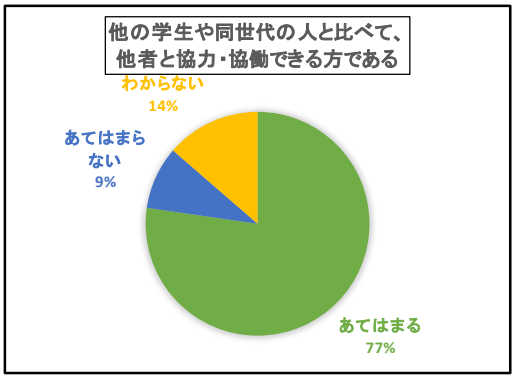
	あてはまる	あてはまらない	わからない
質問Ⅰ(人数)	16	2	4



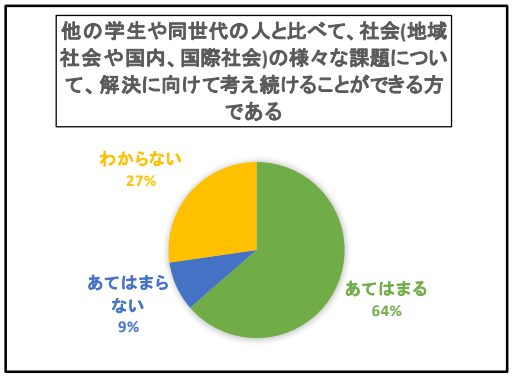
	あてはまる	あてはまらない	わからない
質問Ⅱ-④(人数)	16	1	5



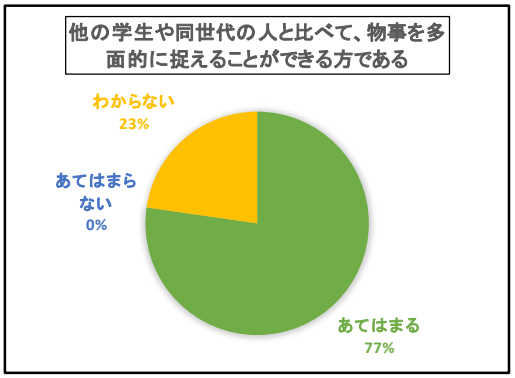
	あてはまる	あてはまらない	わからない
質問Ⅱ-①(人数)	17	2	3



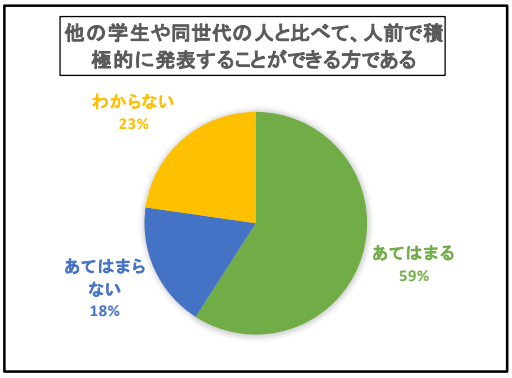
	あてはまる	あてはまらない	わからない
質問Ⅱ-⑤(人数)	14	2	6



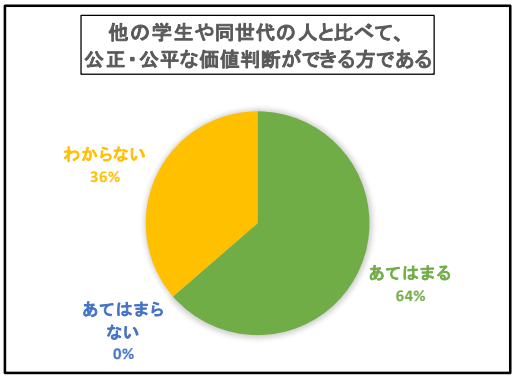
	あてはまる	あてはまらない	わからない
質問Ⅱ-②(人数)	17	0	5



	あてはまる	あてはまらない	わからない
質問Ⅱ-⑥(人数)	13	4	5



	あてはまる	あてはまらない	わからない
質問Ⅱ-③(人数)	14	0	8



	あてはまる	あてはまらない	わからない
質問Ⅱ-⑦(人数)	13	3	6

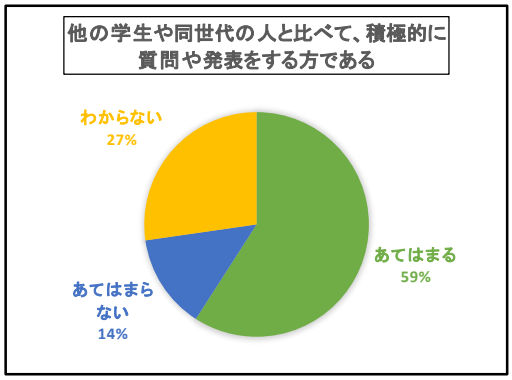


図３　リーガルマインド類型卒業生アンケート①

現在多くの卒業生が大学生になっている。彼らが他の学生と自己を比較した場合、どのように感じているかを尋ねたのが、図３「リーガルマインド類型卒業生アンケート①」である。卒業生たちは、「他の学生や同世代の人」と比べて「他者と協力・協働できる」、「公正・公平な価値判断ができる」、「課題を見つけ出すことができる」、「課題の解決に向けて考え続けることができる」など、本研究において育成すべき資質・能力である「社会人基礎力」や「課題解決力」が発揮されていることを実感している。そのことは次頁の表３の自由記述の中からも読み取ることができる。

表３　リーガルマインド類型卒業生アンケート②

質問Ⅱ-⑧		リーガルマインド類型で学習したことで、自分が成長したと思える時はどんな時ですか。(自由記述)	分析結果	
期生	回答番号	自由記述	育成すべき資質・能力	その他
1期生	1	今の学校で発表をしたとき。		発表場面
1期生	2	ある問題に直面したときに，物事を偏った見方をせずに，客観的に考えようと思うとき。	「社会人基礎力」	
1期生	3	色んな視点から物事を考えられたとき。	「社会人基礎力」	
1期生	4	卒論で自分の意見をまとめて書くときの構成などを経験しているためレポートなどの書き方を始めからわかっていたとき。	「課題解決力」	
1期生	5	問題が発生した時にどうやって解決するか。	「課題解決力」	
1期生	6	さまざまな面で文章を書くときなど 。	「課題解決力」	
1期生	7	大学で自分の意見を発表する時に堂々と自分の意見を発表できるようになった。		発表場面
1期生	8	人前で意見を言えるようになった時。		発表場面
1期生	9	自分は自分の意見が正しいと信じる、変に自信家なところがありましたが、しかしリーガルマインド類型を通して周りの意見を自己の意見に取り込めるようになりました。 法律学で事例問題を解くときに、周りの友達の意見を聞くことで、理解が深められるときに、成長したと感じました。	「社会人基礎力」「統合的思考力」	
1期生	10	あるテーマについて考えるときに、いろんな立場になって考えようとする時。ある1つの視点だけじゃなく、いろんな視点から物事を捉えようとしていると思う。	「社会人基礎力」	
1期生	11	大学でグループディスカッションをしている時に成長を感じます。リーガルマインド類型では、多々グループワークを行ってきました。大学でのグループワークでは、他人の意見を集約したり、課題を見つけそしてまとめる役を率先して行うことができています。	「社会人基礎力」「課題解決力」	
1期生	12	いろんな視点から物事を捉えられるようになった。教師から生徒への一方通行の関係で得られるものとは違った、学生同士で話し合いなどをする事で得られるものが多かった。そういった話し合いの場所で積極的に発言などができるようになった時。	「社会人基礎力」	発表場面
2期生	13	興味のない分野でも、いろんなことを知りたいと思うようになった。		
2期生	14	リーガルの授業を受けるまでは人前で発表するのがとても苦手でしたが、面接を受けた時にはっきりと自分のことや意見を言ったりできた時。		発表場面
2期生	15	自分の意見を持ち、かつその意見を早く言いたいと思う時。また、ニュースで見た社会問題などに対し、無意識に解決策はないかと考えていた時。	「課題解決力」	
2期生	16	グループワークのときに自分の意見をしっかりと持っていることが多くなった。		発表場面
2期生	17	大学のゼミで話し合いをしているとき。		発表場面
2期生	18	大学の部活。		
2期生	19	グループワークやカンファレンスで自分の意見を出したり質問を沢山できたと感じた時 。		発表場面
2期生	20	グループワークやフィールドワークをたくさん行ったことで、大学入学後のグループワークやフィールドワークなどに緊張せず、余裕を持って参加できています。人と関わることが更に好きになったこと、積極的になり、意欲的になれたことが成長したと思えるところです。		発表場面
2期生	21	大学の授業においてフィールドワークなどディスカッションやプレゼンテーションがメインの授業の際、高校の時に先にしていたのでやり方が分かっていてやりやすかった。		発表場面
2期生	22	自分の考えや意見などを他人に的確に伝えることができたとき。		発表場面

一方で、次頁の表４「リーガルマインド類型卒業生アンケート③」での「類型でどのような学習をしていれば今の研究や仕事に役立つと思いますか。」という質問に対しては、他者とのかかわりやコミュニケーションを伴う「社会参画」や「課題解決」、それから「法に関する学習」を指摘する回答が多いことがわかる。

しかし、「研究開発のため」、または「後輩のため」に卒業生たちの 40%がアンケートに協力してくれた事実からは、かれらの「社会参画」しようとする態度を見て取ることができる。

また、本研究が定義する「リーガルマインド」とは、「法的思考力・判断力をより広義に捉え、物事を多面的に捉える力、公正に判断する力、法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす力」である。これは、法そのものを取り扱うのではなく、いかに正義に近づく判断ができるか、他者を尊重できるか、自己の責任を自覚できるか、コミュニケーションを大切にできるかといった、法の基盤になる考え方に基づく資質・能力を育成しようとする意図である。その意味では、例えば表３の回答番号２番の卒業生の「ある問題に直面した時に、物事を偏った見方をせずに、客観的に考えようと思うとき。」との回答は、「リーガルマインド」が育成されていることを示している。

表４　リーガルマインド類型卒業生アンケート③

質問Ⅳ		類型でどのような学習をしていれば今の研究や仕事に役立つと思いますか。(自由記述)	分析結果
期生	回答番号	自由記述	役立つ学習
１期生	1	多くの人のいろいろな考え方を知ること。 人の気持ちを理解するときに役立つと思います。	社会参画
１期生	2	職場や研究の現場取材(相手には伝えず)	社会参画
１期生	3	インターンシップ	社会参画
１期生	4	法学部に進学した現在、模擬裁判の経験はとても有意義であったと感じます。	
１期生	5	普段生活してる上で、どのような問題が起きているのか。また、その問題をどういう風に解決すれば良いのかを考え、発表する。	社会参画 課題解決
１期生	6	法律関連など。	法関係
１期生	7	英語でのディベート。	英語
２期生	8	社会の不便さ。 活動回数を増やして欲しかった。	社会参画
１期生	9	簡単な法律の勉強。	法関係
１期生	10	私は、もう少し日本の政治に触れた学習をしていたら、今法律を学ぶときにより理解しやすいように思います。 憲法という法律には、さまざまに政治が関わってきており、日本の政治をより学ぶことは、日本の法律が学びやすくなり、今の研究に役立つと思います。	法・政治関係
１期生	11	食堂改善計画が上手くいったので、学校内だけで留めず、高校近所の地域の方々とコラボしてもいいかもしれない。普段、暮らしている場所でないから問題点を見つけ解決策まで至るのに時間はかかるだろうが、地域の方々との交流ももてるし、より視野が広くなるのではないでしょうか？	社会参画 課題解決
１期生	12	地域に密着した、課題解決方法を学んでおきたかったと感じます。リーガルマインドということもあり法的思考力を身につけ、公正に物事を考えられるような人材になるという類型なのですが、１つの地域を調査対象にし、その地域の課題を見つけ、考えていくという、一貫性の通った学習をすることで意味あるものになるのではないかと感じています。	社会参画 課題解決
１期生	13	職業、年齢、立場や考え方の大きく違った人との関わり方。そのような人と協力、一緒に作業しなければならないときが絶対くるので、そこでヒビが入ったり、壁にぶつかったりしないように話を進められるように意識して学習がしたかったです。	社会参画
２期生	14	文理の枠にとらわれず、様々な分野の課題について主体的に考えるようにする。	課題解決
２期生	15	どの学習も印象に残っていてやって良かったなと思っているので、正直思いつかないのですが、強いて言うならもう少し法について学習したかったです。	法関係
２期生	16	物事を多面的に捉えられる話題でグループで討論する機会を増やす。	討論
２期生	17	日本の憲法を用いた学習。	法関係
２期生	18	社会の実際の問題について行動していけると良い。	社会参画 課題解決
２期生	19	判断力のつく授業。	
２期生	20	他の分野でも言えることと思いますが、福祉の仕事はチームプレーが重要だと授業やボランティアで痛感します。グループごとに課題を変えて、個々のグループ力が試されるような学習をして、自分の意見と他者の意見を織り交ぜて１つの結論を出すという経験ができればと思います。また、現場の声を聴くことの大切さを身を持って感じています。本やテレビの中の世界だと思っていたことが、自分のすぐ近くで起こっているということに大学入学後何度も気付かされました。授業の時間的制約があり、難しいかもしれませんが、地域の方と触れあうような授業があればいいと思います。	社会参画 課題解決
２期生	21	大学の勉強をする上での基礎ができあがっているので大学に入った際の勉強方法で迷うことがない。	
２期生	22	内部だけでなく外部の人とのコミュニケーションをとる学習。	社会参画

これらの分析からわかるように、「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力の育成については、在校生の結果だけではなく、卒業生も含めた長期的なスパンで検証する必要がある。

２　教師への効果

今年度(2019 年度)10 月に教員（51 名）を対象に、研究開発に関するアンケートを実施し、12 名（24%）の回答を得た。そのうちの「生徒がリーガルマインドを身につけた、または、発揮した場面（授業中、ＬＨＲ等、部活動中、その他）に関するエピソード」を自由記述で回答してもらった結果を、次に示す。

・文化祭の準備を進める中で、クラスが協力して活動できるようにバランスのよい言動をおこなっていた。　**（「社会人基礎力」）**

・絵巻の人物から、その人物についての物語を作るというグループワーク中、人物のしぐさや表情、所持品を手がかりに、意図や考えを複数提示していた。また、班で

アイデアが出なくなり、停滞感が漂った時も、班員全員が前向きに学習していけるように、出てきた意見をまとめ直したり、発言者に尋ねてみたり工夫しながら参加していた。（**「社会人基礎力」**）

・小説の読解や解釈をグループで行っている時、登場人物の発言について、他の人物がどのように解釈したかを多面的に思考し話し合っていた。また、話し合いの進行に合わせて、各時点でのそれぞれの班員が論拠とする部分や対立する部分を書き出して、合意形成を図っていた。（**「社会人基礎力」、「課題解決力」**）

・体育大会で、応援のための装飾を施したうちわが禁止になった際、生徒指導部や学校長になぜ禁止なのかを、きちんとした態度で話を聞きにいった。そして納得した上で、禁止の指示に従った。（**「課題解決力」**）

・資本主義・社会主義の学習の後、両者を二項対立で論じるのではなく、メリット・デメリットを踏まえた上で、第三の価値観を模索しようとする姿勢を見せる生徒がいた。（**「課題解決力」**）

・目標にしていた大会に負け、自分たちが本当に強くなるために何が必要か話し合い、短期目標と長期目標を決めて以後の練習に臨むようになった。自分たちで解決できないことは教員にアドバイスを求め、そのアドバイスをもとに自分たちがどう行動するか考えた。（**「課題解決力」**）

・放課後や休日の部活動の後に、花壇に花の水やりをしている。けがで部活動が制限されていた時、自ら進んで清掃用具の整理整頓に努めていた。（**「キャリア形成力」**）

以上のエピソードと、本校が研究開発をおこなったことと因果関係があると証明するだけのデータを示すことはできていないものの、様々な場面で、生徒は「市民性としてのリーガルマインド教育」が目指す資質・能力を身につけ、発揮していることを示している。

次に、「本校が研究開発指定を受けたことで、ご自身の意識に変容がみられましたか。」とたずねると、次のような回答を得た。

・教師が教えるという意識から、学習者が主体的に学ぶようにするための工夫を考えるようになった。思考力や表現力を高める仕掛けを意識するようになった。

・授業中、一つの問いを考えさせる場面でも、様々なアプローチがあることを知った問いかけの幅が広がった。リーガルマインドのめざす資質・能力を育てることができるよう問いを立てるようになった。

・これまで以上に、生徒の「学び方」に注目して授業を展開するようになった。

・生徒の問題意識を重視したり、価値あるものを創造させたりしようと考えるようになった。また、創造活動や習得の学習に、学習者が前向きになっていけるように、工夫するようになった。

・授業改善の必要性に気づかされたが、小さな試みでとどまってしまい、まだまだ何もできてはいない。

自身の取り組みが変容した教員はアンケートに回答しやすい。その中で「授業改善の必要性は気づかされたが、（中略）まだまだ何もできていない。」といった回答こそ重視すべき回答である。「気づいた」けれども、「まだ」動きだせていない教員も「授業改善」できる環境づくりが課題である。そこで、アンケート後、すぐにリーガルマインド類型の授業公開をアナウンスしたところ、７限であるにもかかわらず多数の教員が見学に来た。「変われていないけれども、変わりたい」と考える教員の意欲

が見て取れる。

３　保護者等への効果

本校の保護者 787 名（１年生 239 名、２年生 276 名、３年生 272 名）に対して、2019 年 11 月に「市民性としてのリーガルマインド教育」に関するアンケート調査をおこない、全体で 476 件（60.5%）の回答を得た。次の図４に示す。

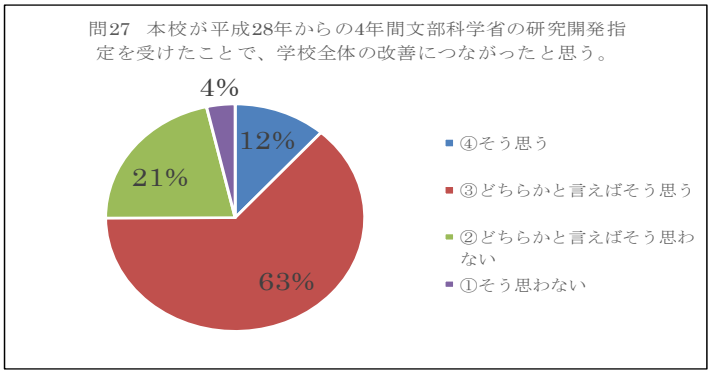


図４　2019 年１１月実施保護者アンケート

「本校が平成 28 年度からの４年間文部科学省の研究開発指定を受けたことで、学校全体の改善につながったと思う。」との回答は、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると 75%あることから、保護者は本研究の成果を概ね評価していると考えられる。

Ⅲ　研究実施上の問題点と今後の課題

①実施上の問題点

・異動の多い公立の普通科高校にあって、どのように組織的かつ継続的に研究をすすめていくかが課題であった。

②今後の課題

今後の課題は次の四点である。

・「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力について。
　生徒が「課題解決」に関わる「社会参画」するための学習とそれにともなう積極的な発信の機会、「法に関する学習」の機会を増やすとともに、「キャリア形成力」を育成する取り組みを今以上に行う。さらに「統合的構想力」について、どのようなカリキュラムにすれば生徒が力をつけたと実感できるのかを検討する必要がある。
・職員室内で気軽にリーガルマインドについて話したり、各自の授業に活用したりすることができるように、研究内容についての掲示をするとともに、指導案等を閲覧しやすいようにデータの整理を行う。
・今後卒業生が社会に出た時、成長を実感できるカリキュラムであったかどうかを長期的なスパンで検証する。
・四つの科目を今後も継続的かつ発展的に研究するとともに、他の科目においても、「市民性としてのリーガルマインド」の資質・能力の育成に向けた授業開発を行うとともに、学校全体のカリキュラム・授業の改善のきっかけとする。